

## 女性アルコール依存症者における自助グループの役割

○職員 A（看護師） 職員 B（看護師） 職員 C（看護師）  
医療法人耕仁会札幌太田病院 リワーク地域連携棟

### 【はじめに】

日本のアルコール依存症者（以下 AL 症者）は約 80 万人と推測されている。その中でも女性の AL 症者の入院者は微増、外来者はここ 27 年間で 10 倍に増加している。現在アルコール依存症は男性だけでなく女性にも多くみられる疾患となっている。女性 AL 症者の臨床特徴には、「若年」「重複障害（精神科合併症）」があげられる。男性では 60 代をピークとした 50～70 代に多くみられるのに対し、女性ではピークははっきりしないが、40～60 代に多くみられる。また、うつ病・不安障害・希死念慮・自傷行為・摂食障害が男性より有意に多くなっている。更に、女性の社会的・家庭内で担う役割への葛藤による苦悩などとも密接に関連するものとされ、治療においては価値観や度合いに合致する自助グループへの参加が重要とされている。

今回、当院の女性 AL 症者対象の自助グループの中で、当病棟職員が関わる『すいれんの会』に焦点を当て、①女性 AL 症者の抱える問題が男性とどう違うのか②女性のための自助グループはどのような役割を果たしたのかを調査し、その結果をここに報告する。

### 【調査内容】

「すいれんの会」に発足当初から参加されている A 氏・B 氏に対して聞き取り調査を実施した。①飲酒理由②参加のきっかけ③男女混合の断酒会との違い④「女性だけ」の断酒会の良い点⑤参加継続できている理由⑥今後の目標

### 【調査結果】

A 氏：①定年後、家族のいない時間を持て余し飲酒②入院中に医師に勧められた③雰囲気の違い④心置きなく話せる⑤助けてくれる人達がいる⑥健康を保ちできる仕事を続ける

B 氏：①母の内縁の夫からのDV、家を出て 17 歳で仕事の付き合い酒②入院中に医師に勧められた③女性だけの安心感、混合だと自分を飾ってしまう④生理など体調面での女性特有の事や同性ならではの話ができる、泣ける⑤本音で話せる、再飲酒しても責められず、やり直せる⑥一日断酒、失敗してもやり直す、自分を大切にする、資格取得

### 【考察】

A 氏・B 氏とも飲酒理由に「社会的・家庭内での役割の変化や不和など女性特有の問題」がみられた。調査の結果、男女混合の断酒会では出し切れない思いを、すいれんの会では安心して隠すことなく表出できていることがわかった。自助グループでは、問題の直面化よりも、まずは支持的・受容的な場を提供することが必要である。再飲酒しても受け入れられやり直せる環境が重要と考えられる。